

社会

日清・日露戦争と条約改正

2年3組

授業者 大山 喜裕

■ 単元の目標

- 日本の対外関係を考察し、東アジアにおける各国のねらいについて捉えることができる。
- 日清・日露戦争と日英同盟に関心をもち、国際関係をふまえ意欲的に調べようとしている。

■ I C T 活用の視点

○ 思考を促す道具としての ICT の活用

Web ビジュアル学習事典歴史 2009 を利用することで、意図的に一部分を隠したり不完全にするなどの歴史資料の加工を行う。また、電子黒板を利用して、それらを拡大して提示することで、効果的に生徒を引きつけることができる。これらによって、共通の疑問や問題意識が喚起され、その後の学習における生徒の思考の活性化へつなげられる。

○ 創造性を促す道具としての ICT の活用

時代索引、人物索引、年表索引、映像索引など、さまざまな視点から歴史情報を収集し映像や画像として確認することができる。また、収録教材以外に調べたい事柄のリンクが貼ってある為、効果的に資料を収集する調べ学習にも活用できる。

○ 本時における ICT 機器の位置づけ

社会科、特に近現代の歴史の学習においては写真資料が増えてくる。しかしながら教室という限られた空間において、それら全てを生徒の前に提示することは不可能である。そこで今回はこれらの資料をデジタル化したソフトを利用し、電子黒板とあわせて効率のよい資料提示を図りたい。

■ 本時の授業の概要

今回の実践は、日清・日露戦争という明治期における大きな2つの戦争が起こるにあたり、欧米諸国との国際関係が大きな影響を与えたという内容を扱うものである。ロシアの南下政策と日英同盟、日本の立場を学習した上で、逆にイギリスが描かれていない不完全な風刺画の資料を紹介する。そして既習内容をふまえて資料をよむことでクリティカルリーディングを喚起したい。最終的には、知識を活用して、正しい関係図を自分なりに図や絵として表現させていく。つまり「資料をよめる」だけでなく「資料を再構成できる」生徒の育成をねらったものである。

学習活動	指導上の留意点
1. 日露戦争に至る経緯や結果について確認する。	あまり時間をかけすぎないようにビジュアル学習事典歴史 2009 と電子黒板を使い、時系列的に確認する。
2. 提示された資料を見て、問題意識を持つ。	ロシアの画家によって描かれた一方的・一面的な資料を見せる。 状況に応じてビゴーの風刺画と比較させる。(ビジュアル学習事典歴史 2009 と電子黒板を使う。)
この絵をどう解釈する？	
3. 資料を見て、登場している人物、及び動物が何を意味しているかを考える。	ノートに書かれた内容を机間指導で確認しておく。
4. 自分の意見を発表し、考えを友達と共有する。	自分の意見の理由をしっかりと発表するようにさせる。
○ 資料を別な視点から見つめて、解釈する。 ● 不足しているものは何かについて考える。	提出した絵には足りないものがあることに気づかせたい。もし、生徒からその発想が出ない場合は、教師の側からしかけ、生徒のクリティカルリーディングを喚起したい。
○ 生徒の考えを共有したり、補い合ったりしながら、戦争は2国間の問題ではなくなっているということを確認する。	日露戦争では、イギリスが欠かすことの出来ない重要なポイントとなった国であることを生徒の発表を通して確認したい。